

氏 名	鈴木 裕介
学 位 の 種 類	博士（社会福祉学）
報 告 番 号	甲第 62 号
学 位 記 番 号	福博第 3 号
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
論 文 題 目	中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造とその関連要因 The structure and its related factors of medical and social welfare needs of older residents in hilly and mountainous areas who require long-term care
論文審査委員	主査 教授 杉原 俊二(高知県立大学) 副査 教授 宮上 多加子(高知県立大学) 教授 時長 美希(高知県立大学) 教授 長澤 紀美子(高知県立大学)

## 論文内容の要旨

近年、在宅医療を促進する保健医療政策により、慢性疾患を抱えて在宅生活を送る高齢者が増加したことを背景として、疾患を抱えながら地域で暮らす高齢者に対する支援が重要となった。なかでも、中山間地域は、「人の空洞化、土地の空洞化、むらの空洞化」が進んでおり、早急に支援システムの構築が求められる。しかし、中山間地域の医療福祉ニーズの研究はわずかに散見されるのみであり、十分に明らかになっているとは言い難い。そこで本研究の目的は、中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造を明らかにして、その関連要因について検討することとした。

最初に、中山間地域で暮らす要介護高齢者 12 名に面接調査を実施した。分析の結果、【医療費負担に関連する困りごと】、【受診・受療に関連する困りごと】、【役割変化に関連する困りごと】、【住環境に関連する困りごと】、【社会資源に関連する困りごと】の 5 つのカテゴリーを抽出した。次に、中山間地域にて地域を基盤に支援を行っている専門職 12 名に面接調査を実施した。分析の結果、【医療費負担に関連する困りごと】、【受診・受療に関連する困りごと】、【役割変化に関連する困りごと】、【住環境に関連する困りごと】、【情報理解に関連する困りごと】、【社会資源に関連する困りごと】の 6 つのカテゴリーを抽出した。

高齢者及び支援専門職 24 名のインタビュー分析結果から質問票を作成し、高知県の中山間地域で暮らす要介護高齢者に対して、この質問票を用いた個別面接調査を行い、196 名から回答を得た。「性別」は男性 37 名、女性 156 名であった。「年齢」は平均 82.1 歳であり、「70 歳代」が 28 名、「80 歳代」が 95 名、「90 歳代」が 57 名、「100 歳代」が 5 名であった。因子分析（プロマックス回転を伴う主因子法）の結果、中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの因子として「役割変化に関する困りごと」「住環境に関する困りごと」「療養生活費に関する困りごと」「情報アクセスに関する困りごと」「社会資源量の不足に関する困りごと」の 5 因子が抽出された。また、ニーズ間の相関性の程度も明らかになり、支援をする際どのニ

ズと一緒に支援すると、より効果的なのかについて示唆を得ることができた。以上の結果から、これら 5 つの因子を相互に関連する一連のニーズとして捉えて包括的に支援する必要性があることが示唆された。最後に、「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズ」を独立変数、生活満足度尺度 K を従属変数として重回帰分析を行った。その結果、「役割変化に関する困りごと」、「住環境に関する困りごと」、「療養生活費に関する困りごと」が生活満足度と関連を示した。この結果から、どの因子が生活満足度に影響を及ぼすのか可視化できたことにより、ニーズにそった支援をすることで生活満足度が向上する可能性について実証的に明らかにした。

## 審査結果の要旨

「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造とその関連要因」は中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造を明らかにして、その関連要因を明らかにした博士論文である。

近年、在宅医療を促進する保健医療政策により、慢性疾患を抱えて在宅生活を送る高齢者が増加したことを背景として、疾患を抱えながら地域で暮らす高齢者に対する支援が重要となった。なかでも、中山間地域は、「人の空洞化、土地の空洞化、むらの空洞化」が進んでおり、早急に支援システムの構築が求められる。しかし、中山間地域の医療福祉ニーズの研究はわずかに散見されるのみであり、十分に明らかになっているとは言い難い。そのために 4 つの調査を実施した。

最初に中山間地域で暮らす要介護高齢者 12 名に面接調査を実施した。分析の結果、【医療費負担に関連する困りごと】、【受診・受療に関連する困りごと】、【役割変化に関連する困りごと】、【住環境に関連する困りごと】、【社会資源に関連する困りごと】の 5 つのカテゴリーを抽出した。次に、中山間地域にて地域を基盤に支援を行っている専門職 12 名に面接調査を実施した。分析の結果、【医療費負担に関連する困りごと】、【受診・受療に関連する困りごと】、【役割変化に関連する困りごと】、【住環境に関連する困りごと】、【情報理解に関連する困りごと】、【社会資源に関連する困りごと】の 6 つのカテゴリーを抽出した。さらに、高齢者及び支援専門職 24 名のインタビュー分析結果から質問票を作成し、高知県の中山間地域で暮らす要介護高齢者に対して、この質問票を用いた個別面接調査を行い、196 名から回答を得た。「性別」は男性 37 名、女性 156 名であった。「年齢」は平均 82.1 歳であり、「70 歳代」が 28 名、「80 歳代」が 95 名、「90 歳代」が 57 名、「100 歳代」が 5 名であった。因子分析（プロマックス回転を伴う主因子法）の結果、中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの因子として「役割変化に関する困りごと」「住環境に関する困りごと」「療養生活費に関する困りごと」「情報アクセスに関する困りごと」「社会資源量の不足に関する困りごと」の 5 因子が抽出された。また、ニーズ間の相関性の程度も明らかになり、支援をする際どのニーズと一緒に支援すると、より効果的なのかについて示唆を得ることができた。以上の結果から、これら 5 つの因子を相互に関連する一連のニーズとして捉えて包括的に支援する必要性があることが示唆された。最後に、「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズ」を独立変数、生活満足度尺度 K を従属変数として重回帰分析を行った。その結果、「役割変化に関する困りごと」、「住環境に関する困りごと」、「療養生活費に関する困りごと」が生活満足度と関連を示した。この結果から、どの因子が生活満足度に影響を及ぼすのか可視化できたことにより、ニーズにそった支援をすることで生活満足度が向上する可能性について実証的に明らかにした。

いずれも丁寧に調査を実施しており、中山間地域に暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造を示すことができた。

以上により、本学位審査論文は、学術的創造性や独創的を備え、学位授与の水準を満たしていると考えられた。よって、学位審査委員会は学位申請者 鈴木 裕介 氏が、博士（社会福祉学）の学位を授与される資格があるものと認める。